

令和元年度地域包括ケアシステム評価指標による評価結果等について

〔 令和 2 年 11 月 19 日
地域包括ケア・高齢者支援課 〕

1 趣旨

平成 29 年度までに県内全 125 日常生活圏域で構築した本県の地域包括ケアシステムの更なる質の向上を図るため、令和 2 年度に設定した「コアコンセプトに基づく地域包括ケアシステムの評価指標」（別紙 1）による令和元年度評価を実施したため、その評価結果を報告する。

2 評価方法

市町の自己評価に対して保健所においてヒアリングを実施し、具体的な取組や課題の把握を行い、好事例の発掘を行った。

3 評価結果等

- ・表 1 のとおり、地域包括ケアシステムを構成する分野別に実施率にばらつきがあることが分かった。
- ・表 2 のとおり、分野ごとに課題を抽出し、改善に向けた対応策を整理した。
- ・評価結果やヒアリングを通して、地域の資源にばらつきがあるものの、地域の実状に応じた特徴的な取組を実施していることが分かった。
- ・特徴的な取組については、市町情報交換会で横展開し、保健所や広島県地域包括ケア推進センターと協働して市町支援を実施し、地域包括ケアシステムの質の向上を図る。

【表 1 分野別の実施率】 *評価が「○」であった率

分野	医療	介護	保健・予防	住まい	生活支援	専門職	住民参画	行政の関与
実施率	77.9%	60.2%	55.4%	57.3%	80.6%	76.6%	74.6%	74.4%

【表 2 令和元年度評価に係る主な課題と対応策】（詳細は別紙 2）

分野	実施率	課 題	対 応 策
保健・ 予防	55.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場において、多様な通いの場づくりや継続的な介護予防の取組ができていない。 ・高齢者の保健予防と介護予防の一体的な取組が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場における市町間データの提供 ・一体化における通いの場での健康状態の把握 ・地域リハビリテーション広域支援センターやサポートセンターと連携した通いの場での支援体制の強化 ・リハ職の質の向上を目的とした人材育成 ・アドバイザー派遣等による、目標の共有や地域の互助力向上への支援 ・情報交換会の開催による好事例の横展開及び外部発信
住まい	57.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のニーズにあった住まい政策の推進ができていない。 ・高齢者の移動・外出支援について、地域で具体的な取組が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング等による実態把握 ・地域マネジメント及び各地域の実情に応じた伴走型の支援 ・情報交換会の開催による好事例の横展開及び外部発信
介護	60.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護等の在宅サービスの整備が、介護人材不足や採算面の問題等から市町の計画どおりに進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング等による実態把握 ・圏域内での施設運営の効率化や維持に向けた検討の実施 ・市町では把握困難なデータ等についての情報提供 ・サービスの整備・普及に向けた取組推進への助言 ・広域型の介護老人福祉施設の定員減等の相談があった場合、関係市町と連携を図り、定員数の調整等を行う ・介護老人保健施設の専門員が地域で活躍できる方法の検討 ・制度の周知やきめ細やかな研修の実施による、専門的な人材の確保と育成 ・職業紹介の専門機関との連携などによる、マッチング機会の提供 ・セミナー開催等による県民へ介護職の魅力発信 ・情報交換会の開催による好事例の横展開